

令和6年度

園内研修報告書

テーマ

「園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」
～身近な自然に親しみ、好奇心や探究心を育むことを通して～



園内研修メンバー

園長：大田 朝史

主幹教諭：系数 和香代 渡口 亜紀

5歳児担任 内間 智代 平安名 優織

4歳児担任 佐和田 美由紀 3歳児担任 仲宗根 麻衣子

フリー保育教諭 大城 智子

目 次

I	テーマ設定理由	1
II	研究の目標	1
III	研究の方法	1
IV	研究の内容	1
V	園内研修年間計画	2
VI	構想図	3
VII	実践事例	
	事例1 「オシロイバナの種って不思議だね！」	4
	事例2 「カタツムリさんありがとう」	7
VIII	成果・課題・改善策	6

「園児が遊びこむための環境構成と援助の工夫」 ～身近な自然に親しみ、好奇心や探究心を育むことを通して～

I テーマ設定の理由

近年、子どもたちを取り巻く環境としてテレビやパソコン、タブレット、スマホなどのメディアを通しての間接体験の機会が増え自然と関わる機会が減ってきている。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の「環境」内容の取扱い（２）では、「主体的に自然のいろいろな面に触れることで好奇心が生まれ探究心が湧き出てくる。どうしてこうなるのだろうと思いを巡らせ思考力を働かせる。」と述べられている。

本園は自然に恵まれ、近くに遊べる森があり蝶や昆虫が来る食草を計画的に植栽することで、昆虫等へ子どもたちの興味関心が高く、虫からサナギ、サナギから蝶へ羽化する瞬間を楽しみにする姿が見られる。しかし、虫を捕まえて図鑑で調べ飼育することに留まり、探究へ繋げ遊びこむまでに至っていない。

このことから、子どもたちが身近な自然に触れ「なぜ?」「不思議だな!」「どうして?」とわくわくしながら好奇心や探究心を膨らませていけるよう、保育者は園児の自然との出会いを見逃さないように関わっていけるようにしたい。また、保育教諭や園児と一緒に自然豊かな本園の環境に関わり、観察するだけに留まらず、好奇心や探究心を育み、共に遊びこめるようにしたい。

II 目標

身近な自然環境に主体的に親しむことで興味・関心生まれ探究心が育つような環境構成や援助の工夫を図る。

III 方法

- 1 保育ドキュメンテーションを作成し、園児理解に努め、園児の姿から環境構成を柔軟に検討し工夫する。
- 2 保育の振り返りを通して環境構成や援助の工夫を図る。
- 3 保育ウェブを取り入れ、園児が遊びの見通しがもてるよう工夫する。

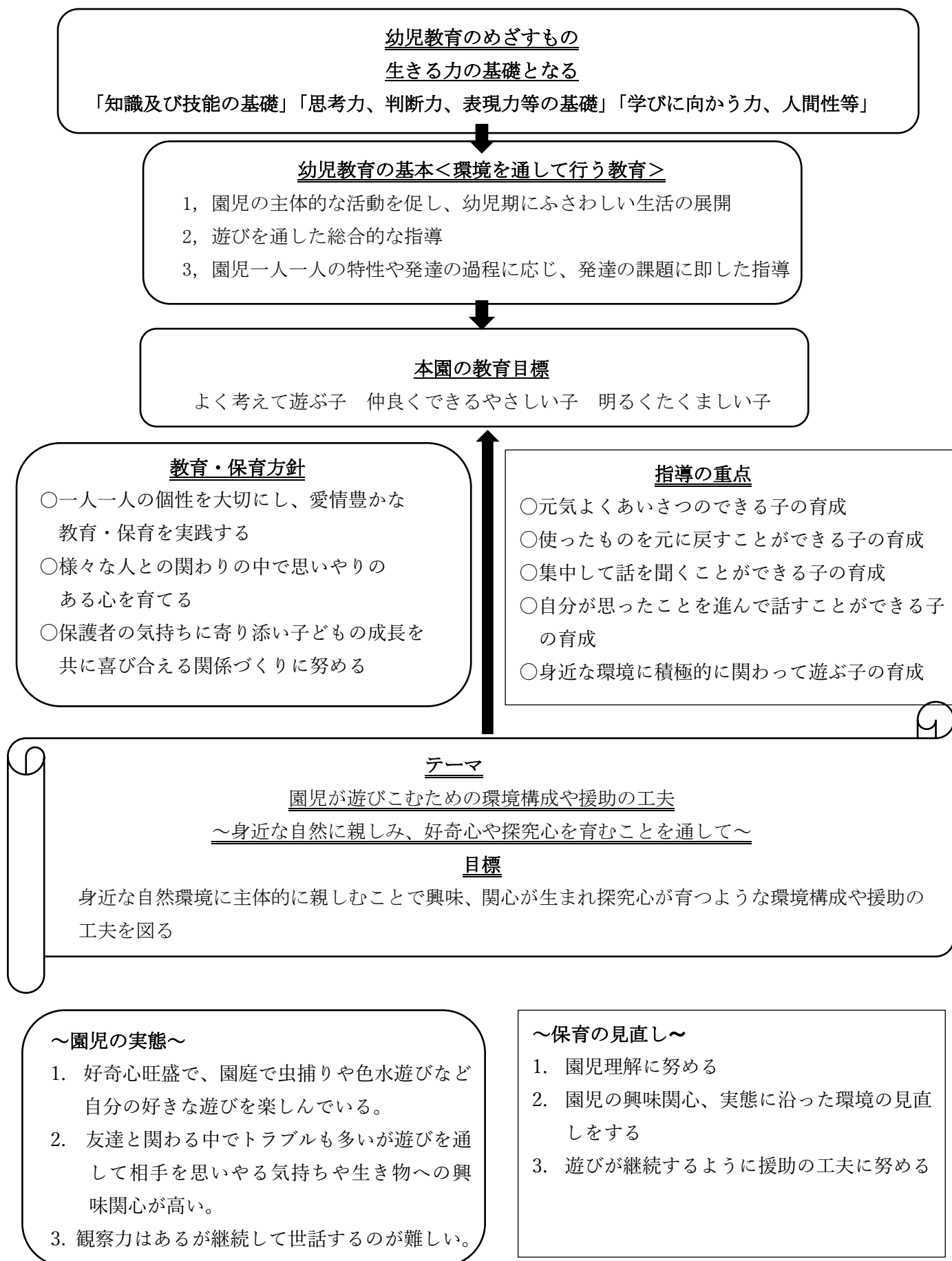
IV 内容

- ・園児の興味・関心を捉え、好奇心や探究心を育み環境構成や援助の工夫を図る。
- ・園児との話し合いを丁寧に受け止め活動につなげていく。

Ⅴ令和6年度～園内研修年間計画書～

日時	研修名・内容
5月15日（水） 14:30～16:15	5園研修会の事前説明会（5園研）開催について 対象：公立幼稚園・公立こども園・公私連携型認定こども園の研究主任等 南城市幼児教育施設希望者 演題「幼児が遊びこむための環境構成や援助の工夫について」 講師:沖縄女子短期大学児童教育学科・名渡山よし乃氏
5月21日（火） 9:30～10:30	園内研修①テーマ「環境構成について」 園長、主幹、各クラス保育教諭、フリー保育教諭参加
6月1日（土） 13:00～14:30	園内研修②-1「園内研修の取り組み方」について:大城美恵子アドバイザー 園長、主幹、各クラス保育教諭、フリー保育教諭参加
6月20日（木） 10:00～11:00	園内研修③-2「園内研修の取り組み方」について大城美恵子アドバイザー 園長、主幹、フリー保育教諭
7月2日（火） 10:00～11:30 7月25日（木） 10時～11時30	園内研修④・サブテーマの検討 ・構想図作成:園長、主幹、フリー保育教諭 園内研修⑤・テーマ設定について：大城美恵子アドバイザー、園長、主幹、フリー保育教諭
8月	事例の検討会 主幹、すみれ組担任、フリー保育教諭
12月20日（金）	園内研修報告書提出日
令和7年 2月21日（金） 14:15 受付 14:30 開始	5園研園内研修報告会(南城市庁舎にて) ・報告者 大城智子 ・指導助言：沖縄女子短期大学児童教育学科講師：名渡山よし乃氏

VI令和6年度 構想図



『発達過程』

- ・戸外で体を動かしたり、草木を摘んだりして自然と関わって遊ぶ時期
- ・園生活に慣れてきて友達との関わりも広がってくるが、ぶつかり合う姿も見られる時期

『期のねらい』

- ・保育教諭や気の合う友達と一緒に好きな遊びを見つけ、決まりを意識しながら楽しく遊ぶ。
- ・身近な夏の自然に興味、関心をもち、水遊びを通して水に親しむ。

『園児の実態』

- ・園の豊かな自然との関わりの中で草花に興味をもち、遊びに取り入れて楽しむ。
- ・オシロイバナの種を割りたいと思いきや考えを出し合い白い粉を取り出す。更に色水遊びへ広がっていく。

『保育教諭の願い』

- ・園庭にある様々な草花にも興味を持ち工夫しながら遊びに取り入れて欲しい。
- ・発見や驚きを友達と共有することで関わりを楽しんで欲しい。

『環境構成』

- ・子どもたちの興味関心が継続出来るようクラスの花壇に草花を植え、いつでも触れることが出来るようにする。
- ・遊びが広がるよう図鑑、道具の準備、場所を確保する。



『保育教諭の援助』

- ・子どもたちの発見や気づきに共感し工夫して遊ぶ姿を見守る。
- ・遊びのイメージを引き出し、更に膨らむような声かけや道具、材料を出していくタイミングを図る。

6月中旬 一人の園児がオシロイバナの種を見つける。真っ黒な種に興味津々の様子。割ると白い粉がある事に気付く。K「先生これ何？」保育教諭「昔はこの粉をお化粧として使っていたそうよ。」と伝えらると数名集まりK「体につけてみたい！」E「お化粧した～い。」A「どうやって粉を出すの？」保育教諭「どうしたらいいのかな～」と答えると子どもたちは考え色々試し始める。

* 足で踏む



なかなか割れないな～

* 洗う



手をすくめ工夫する。

* 石で叩く



ケガしないようにね～

流れないように！

足で踏み、石で叩き種を割ることに成功!! 真っ白な粉が出てきました。



やっと出てきた〜♡



～色水遊び～

さっそく顔や手の甲に白い粉を塗り試して楽しむ。以前、年長さんがやっていた色水遊びを思い出したようで廃材置き場からカップを持ち出す。水を入れ木の棒で混ぜ、潰すと思う色にならず。「友達の粉も合わせよう。」と一人の園児が提案。3人分、合わせて完成。満足そうな表情を見せる。少しずつ興味をもつ園児が増える。

僕も挑戦!

顔につけてみようかな



牛乳完成!



7月に入ると水遊びが盛り上がり草花への興味が遠のく。

8月中旬 クラスの花壇に咲いているバタフライピーのさやを発見!!

さやの中から黒っぽい種を取り出し、石で種を割ると白い粘り気のあるものが出てくる。

オシロイバナを思い出したようだが顔に塗る勇気はなかったようで脚に塗る。そこからオシロイバナの時と同じように**色水遊びに発展!**



簡単に種ゲット!



ピーナツの匂いがする

白い種が出てきた。スライムみたい!



種が割れた瞬間「ピーナツの匂いがする。」「森の匂いがする。」と色々な表現が子どもたちから出てくる。オシロイバナとは違う匂いと感触に探究心が芽生え同じことを試してみる。粉を腕や脚に塗り、更に色水遊びへ発展する。完成した色水を一日おくと匂いが強くなり、色が濃くなっていることに気付く。友達や保育教諭に気付きを伝え喜ぶ姿が見られる。

さやの色の違いで中の状態や様子が変わっているがそこには触れず自分の思う色水が出来て満足している。

カルピスみたい!



(協同性 自然との関わり 言葉による伝え合い 思考力の芽生え)

～製作遊びに発展～

保育教諭が種を使って他に何か出来ないか提案する。「絵を描きたい。」の声から白い画用紙を用意。ペンを持ち出し好きなキャラクターを描く。バタフライピーの種を使い表現を楽しむ。切り貼り色を塗ってひもを通しオリジナル製作を楽しむ。



(豊かな感性と表現 協同性 言葉による伝え合い)

【考察】

- ・身近にある植物の種が昔は生活に使われていたことを知り自分の身体で体現することができた。そこから遊びが広がり子ども同士で関わり合う楽しさを味わっていた。
- ・種の不思議から共通の目的に向かって友達と試行錯誤し気づきや発見を共有できた。
- ・身近な植物への興味や関心につながった。

Ⅷ成果・課題・改善策

【成果】

- ・園児が園にある自然に興味や関心をもち、遊びに取り入れ更に遊びが広がった。
- ・種類が違う植物の種を比べ探究心が芽生えるきっかけとなった。
- ・植物の種から昔の生活の工夫を知ることができた。

【課題・改善策】

- ・たくさんの園児に身近な植物に触れて欲しい。その為に十分な環境を整える。
- ・遊びが継続でき、草花の種類や季節の移り変わりによる違い、変化に気付けるような言葉かけを工夫する。園児のつぶやきを受け止め大切にし、好奇心や探究心を更に育んでいきたい。

『発達過程』

- ・様々なことに興味や関心をもち、生活や遊びの中で試そうとする時期
- ・友達に親しみをもち遊ぶ中で、ぶつかり合うことが多くなる時期

『期のねらい』

- ・園生活にも慣れ、簡単な身の回りの始末を保育者と一緒にしようとする。
- ・遊びや生活を通して、約束や決まりがある事を知っていく。
- ・友達と一緒に、水・砂・泥など夏ならではの遊びに親しむ。

『園児の実態』

- ・梅雨時期室内遊びが多く保育教諭を交えて会話や絵本を機に子どもたちからカタツムリについて話題が出る。園の花壇からカタツムリを捕まえ飼育ケースに入れて観察が始まる。
- ・興味・関心から図鑑を開き何かにときめいている様子。
- ・園生活に慣れ、簡単な身の回りの始末を自分でしようとする。

『保育教諭の願い』

- ・遊びや生活を通して、約束や決まりがある事を知り守ろうとする。
- ・友達と一緒に夏ならではの遊びに親しみ気付いたことを自分の言葉で伝え合う喜びを味わって欲しい。

『環境構成』

- ・観察しやすいように飼育ケースを子どもたちの目の高さに置く。
- ・気付いた事をすぐに調べられるように図鑑や絵本を準備する。
- ・観察の過程や子どもたちの様子を一目で分かるように保育室に保育ウェブを取り入れる。

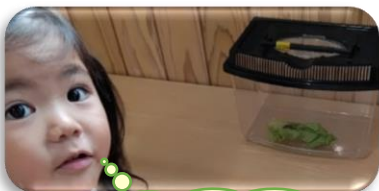
『保育教諭の援助』

- ・飼育ケースの中を定期的に子どもたちと掃除し衛生面に気を付ける。
- ・園児の目線に合わせ、対話しながら小さなつぶやきを丁寧に受け止める。
- ・カタツムリを触った後は必ず手を洗う約束をする。



6月中旬 カタツムリの観察・お世話スタート

梅雨についての会話や絵本を機に、子どもたちからも“カタツムリ”について話題が出る。絵本には、食べ物やウンチの色についても書かれていて興味や関心が伺え、担任がクラスの花壇からカタツムリを捕まえてくる。



カタツムリ可愛い♡



カタツムリの動きを不思議そうに見入る。取り合いになる場面も。

「わあーカタツムリ！」と、押し合いになるほど興味津々!!自分たちから図鑑を開いて何か思い付き、考えを浮かべている様子。始めは何気なくレタスを入れる。(多くの子どもたちはレタスを葉っぱと言っています)エサを替えるタイミングで何を食べるのか図鑑で調べ次は何をあげるか子どもたちで話し合い決める。



人参は食べない
と思うな～

「食べる?」「食べない?」と予想をたてひと時も目が離せない様子。

ぬり絵をしながらも飼育ケースを覗き、園庭遊びの時間もテラスに持ち出す園児。お友達との会話も弾んでいるように見える。育てるには土と水も必要と知り保育教諭と一緒に環境を整える。

(思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、言葉による伝え合い)

7月中旬

きゅうり、パプリカ、人参を入れ食べる様子やウンチの色を見て実験結果を喜んでいる様子。茶色いウンチを見て「土も食べるぜ!!」とクラスで盛り上がる。「どうだろう?」「なぜ?」が多く聞かれ自分の言葉で伝え合い皆と考える。

蚊がいる。
カタツムリが刺されたら痒いよ。パチして!



きゅうりの真ん中
だけ食べている!?



人参食べている!ほら
オレンジのウンチある



ハプニング!!



1人の園児が飼育ケースを持ちカタツムリを観察していると床に落としてしまう。皆に責められ呆然とする。保育教諭が来て「大丈夫だよ。一緒に片付けよう。」との声掛けに皆、安心した様子。カタツムリも無事でした。



これが
卵?

8月上旬もしかしてカタツムリの卵!!

普段通り飼育ケースのお掃除をしていると「これ何?」「白いつぶつぶなんだろう・・・」「えっ卵なの!」図鑑を開いて「ほら!図鑑の卵と一緒にだよ!」と確信し、喜ぶ園児がいる。「土の中に卵、隠しているね!」と子どもたちからおもしろい声が聞こえてくる。

卵の発見を喜び、皆に伝えたくて事務所にいる先生達に見せに行く。それからしばらくじっと待つ日が続く。土が乾いてはいけないと保育教諭が伝えると霧吹きで水をかける毎日。卵の色が変わっていく様子に気付くのか見守る。徐々に仲間が集まりカタツムリの歌を歌ったり、折り紙でカタツムリを折ったりと遊びが広がる。



8月下旬カタツムリの赤ちゃんがうまれた!!

卵発見から約3週間。白かった卵が徐々に茶色くなっていく。(子どもたちは変化に気付かなかったよう)いつものように登園し飼育ケースを覗くと「先生、卵がパカってなっている!!」「なんかカタツムリが生まれたよ。」大きな紙の上に土を広げ、友達と虫メガネを交代で使い、じっくり観察できる時間をもつ。



飼育ケースのお掃除も小さな赤ちゃんが流されないように気を付けながら上手にお掃除をする。
手のひらに乗せてのお散歩は「可愛い～」との声があがった。

「カタツムリが小さくてケースの蓋の穴から抜け出してしまうそうだね。」と子どもたちに問いかけ、皆で話し合うことにする。

H児「逃げたら捕まえたらいいさー」

S児「逃げないんじゃない。」

K児「大きい箱に入れたらいいんじゃない！」

結果、保育教諭が蓋にサランラップをして対策をとることにした。

小さい赤ちゃんを愛おしそうに見つめお世話する姿がしばらく続いた。

赤ちゃん流されな
いように気を付け
て～



保育教諭：カタツムリの赤ちゃんって何食べているの
かな？

S：私のお家の赤ちゃんはおっぱいとミルク飲むよ。



赤ちゃんがお散歩し
ている～♡

（道徳性・模範意識の芽生え 自然との関り・生命尊重 言葉による伝え合い）

10月上旬カタツムリをお家にかえす

雨の降る日が続きこれまで飼育ケースで育ててきたカタツムリ。どんなエサを食べるのか試し、ケースをきれい掃除するなど環境を整えてきた。卵を産み赤ちゃんが生まれ、たくさんのドラマを見せてくれたカタツムリ。子どもたちは日々、何かに気付き不思議に思い観察し目を輝かせていた。子どもたちと「そろそろ大人のカタツムリ、大好きな雨だし外の世界に帰そうか？」と話し合い園庭に出るタイミングで最初に捕まえた花壇へかえすことにする。

保育教諭：「葉っぱの上に逃がしたのはどうして？」A児「葉っぱを食べると大きくなると思ったから。」



ばいばい。
ありがとう



かえした直後子どもたちと振り返ると・・・

E児「触ると可愛かった」M児「エサあげるの楽しかった」M児「大好き♡」

K児「逃がさなければよかったのに」S児「ずっと一緒にいたかったのに・・・」「でも、赤ちゃんがいるから大丈夫!!」

Y児「お外の葉っぱいっぱい食べて大きくなったらいいな」

子どもたちからは愛着を感じる優しい感想が聞けた。翌日、園庭遊びの最中、プランターの中に割れたカタツムリの殻を見つけて「逃がしたカタツムリじゃないよね」と不安そうな声も聞かれ生き物に対する思いやりのある声が聞けた。

(自然との関わり・生命尊重 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現)

今までの過程を分かりやすくするために保育ウェブを取り入れる



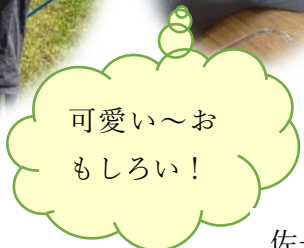
R児「きゅうり、食べてたよね!」M児「人参も食べたね!」R児「ウンチもオレンジだったよね!」など子どもたちで振り返り見通しをもつ事が出来た。

カタツムリのお世話をきっかけに様々な生き物に興味をもつ子どもたち🐸

クラスで絵本を見ながらカタツムリの成長を振り返り気づきや発見を共有する📖

カタツムリのお世話をきっかけに生き物に興味をもち

オタマジャクシ、チョウチョ、バッタを手にしてじっくり観察する姿が多くあった。生き物を通して友達との関わりも増え、時にはぶつかり合う事もあるが、自分の思いを自分の言葉で伝え合う素敵な場面が多く見られた。



可愛い～おもしろい!



泳ぎ上手!!

【考察】

- ・カタツムリのお世話を機に「なぜ?」「なんだろう…」と子どもたち自ら図鑑や絵本を開いて習得し保育教諭に伝え、行動に移そうとする姿があった。さらに知りたいという気持ちが育った。
- ・お世話を通して充実感や達成感を味わい無理のない責任感をもつ喜びを感じた。
- ・気付いたことを自分の言葉で友達や保育教諭に伝え、一緒にやり取りを楽しむが見られた。
- ・園での生活に楽しみをもちクラスの雰囲気が和やかになった。
- ・カタツムリの動きを真似、楽しそうに歌を口ずさみ、更に表現は製作にも広がっていった。

Ⅷ成果・課題・改善策

【成果】

- ・カタツムリを飼育することで生き物に興味、関心をもち身近な自然に触れることができた。
- ・エサの準備、食べた食材でフンの色が変わる事に気付き探究心、思考力の芽生えにつながった。
- ・飼育ケースのエサの食べ残しやフンを取り除き水で洗いつつもきれいにする習慣が身につき生き物への愛着が湧いてきた。
- ・友達、保育教諭とのやり取りに親しみを感じ、言葉による伝え合いを楽しみ協同性が育んできた。保育教諭、子どもたちと信頼関係を築けた。
- ・小さい生き物に対する命の大切さや尊さ、愛着の芽生え、思いやりや優しさを育むことができた。
- ・保育室に保育ウェブを取り入れたことで、これまでの様子が分かりやすく、子どもたちの気付きや言葉の伝え合いが増えてきた。
- ・保育ウェブを子どもたちと作成することで、カタツムリへの好奇心や探究心が更に高まった。

【課題・改善策】

- ・園児の興味関心を捉え更なる探究心が芽生えるよう、園児の発達段階に合わせた援助と環境構成を工夫する。
- ・生き物の触れ合いを通して、異年齢との交流を増やし、一緒に学び成長していく機会をつくる。
- ・保育カンファレンスを通して、遊びの振り返りを行い、園児理解を深める。